



大倉ふじお

通信 意見等ありましたら
お気軽にご連絡下さい

2016年7月 第158号
発行・会派「公明党」大倉富重雄
成田市不動ヶ岡1984 22-3062

私の議会質問から

詳しくはこちらからご覧になれます▶

成田市議会中継

検索

平成28年6月議会は、6月3日開会し、6月22日に閉会しました。私は、6月8日に「人口ビジョンとひと・まち・しごと創生総合戦略」など4項目について質問しました。要旨は以下の通りです。

① 人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略—先駆性を!



質問内容

本市は、昨年10月に、人口ビジョンを基に、成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した。

①この戦略はとても重要なものであり、本市の人口ビジョンからみえる課題に対し、**どのような戦略を策定したのか。**

②国は、**日本版DMO**(観光地域づくりの舵取り役として多様な関係者と協働し、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための調整機能を備えた法人)を観光政策のメニューの1つとして進めている。日本遺産の認定を受けた成田市は絶好のチャンスだ、見解は。また**日本版CCRC**(生涯活躍のまち)の見解は。③地方創生プロジェクトに対する企業の寄附「**企業版ふるさと納税**」の見解は。

答弁

①「成田市人口ビジョン」の策定は、将来的に確実に訪れるであろう人口減少や少子高齢化に対応するため、「市民の希望がかなった場合の出生率」の実現や、「市民の転出入の差による人口増加」を維持するものとして将来人口を推計した。本市が目指す人口を実現するため「生き生きと長く働くことができるまち」、など4つの基本目標を設定し、これらの**基本目標に基づいた施策に取り組む**。

②百万都市江戸を支えた江戸近郊の代表的な町並みを残す、成田市、佐倉市、香取市及び銚子市を舞台とした「北総四都市江戸紀行」が、千葉県で初の日本遺産に認定されたことを積極的に活用しながら、今後も引き続き観光振興を図っていく。日本版DMOは、その対象エリアは単独市町村の区域のみや複数の自治体にまたがる区域など様々であり、関係者や関係業種も多種多様であり、相当の調整が必要と想定される。このことから、今後、他市での事例を研究し本市での**実現の可能性について検討していく**。また、日本版CCRCは、国の動向を注視しながら、先進事例について**調査研究する**。

③地方創生事業で有効に活用を考えるが、対象となる事業につきましては、新規事業に限られており、さらに、地方創生の観点から効果の高い事業である。このため、対象事業の創設には十分な検討が必要なことから、先進事例や諸課題などを**調査研究**していく。

再質問・要望した事項

☐希望出生率(1.62)実現の設定
☐子育て世代包括支援センター

☐地方創生加速化交付金の活用
☐社会増の数値目標見込みは

☐地方再生計画の作成を
☐地方創生推進交付金の活用

② 立地適正化計画と公共施設等総合管理計画—市民に見える形で!



質問内容

立地適正化計画は、中心市街地や公共交通沿線の拠点地区に都市機能を集約し、都市型居住の創出や民間活力の誘導により持続可能なまちづくりを促進していくことを目的とした制度である。一方、全国の公共施設等がこれから大量の更新時期を迎えることや人口減少等により利用需要の変化そして合併後の施設全体の適正化の必要性が問われており、立地適正化計画と公共施設等総合管理計画とは整合性のある計画でなければなりません。また、市民に見える形で策定することに意義がある。①**立地適正化計画の策定を、どのように推進していくのか。**

②**コンパクトシティ・プラス・ネットワーク**の見解は。③**公共施設等総合管理計画の進捗状況**は。

答弁

①**本年度に都市機能誘導区域**を定めた立地適正化計画を策定し、**来年度に居住誘導区域**を加えた計画を**策定する**予定である。パブリックコメントなど、市民の皆様の意向を把握し、都市計画マスタープランなど関連計画との整合を図り、市の将来のあるべき姿と、それに向けた取り組みについて、市民の皆様の理解が得られるような内容にする。

②今後は、公共交通のネットワーク化をさらに進めるため、立地適正化計画の策定にあわせて、「**地域公共交通網形成計画**」などの公共交通の充実のための計画の**策定**を進め、「相互補完型のまちづくり」の実現が図られると考える。

③**平成27年度と28年度の2か年をかけて策定**する。平成27年度については、公共施設の延べ床面積や構造などの基礎的データ整理や光熱水費等の維持管理に関する経費情報の収集を行い、インフラ施設については、年度毎の整備状況や投資的経費情報の収集などを行った。今年度は、施設類型ごとの現状と課題の整理を行い、長寿命化計画との整合を図りながら基本方針の策定、フォローアップ体制などの構築に関する協議を踏まえ、パブリックコメントの実施や議会報告を行い、計画策定に向けて取り組む。

再質問・要望した事項

☐居住と都市誘導区域の同時設定を
☐目指すべき都市像の設定

☐都市機能誘導区域の範囲・施設・届出制
☐居住誘導区域の留意点

☐コンパクトシティの認識は
☐除去債の活用・PFIの活用を
☐地域公共交通網形成計画の策定を

③ 民生委員協力員制度—民生委員の負担軽減を図る取り組みを!



質問内容

近年増え続ける独り暮らしの高齢者の家庭訪問や児童虐待の早期発見など、民生委員に期待される役割は多様化しており、業務量は増加している。負担感の重さもある、民生委員を引き受ける人が少なくなっている。こうした課題に対し先進自治体では、民生委員の活動を補助する**民生委員協力員制度**を創設している。負担軽減を図る1つの取り組みであると私は考えるが、どうか。

答弁

近年の社会問題の複雑化に伴い、民生委員の役割はますます重要なものとなっており、今後の担い手を確保するうえでは、その負担の軽減も大きな課題と認識している。今後も各地区の民生委員の実情に応じて適正な配置がなされるよう状況の把握に努め、民生委員児童委員協議会と協議の上、必要に応じて増員を要望するなど、**民生委員の負担軽減を図っていく**。

④ 多胎妊婦の健診助成の拡充—助成14回から19回へ拡充を!



質問内容

子育て支援の1つとして、双子や三つ子などを妊娠している多胎妊婦を対象に、妊婦健診費の助成回数を14回から19回へと拡充してほしいとの声が寄せられた。富田林市では、多胎妊婦を市単独で19回への拡充をしている。本市の双子の出産は毎年11組程度であるが、その方々には助かると思う。そこで、双子を出産した方から、是非富田林市のように、**19回へ拡充してほしい**との要望について、市の見解は。

答弁

多胎妊娠は単胎妊娠に比べて出産のリスクが高く、必要な健診回数が増える傾向にあることから、今後、多胎妊婦に対する上乗せ助成を行っている他市の事例を踏まえ、**助成拡充について前向きに検討**してまいります。